

## 「天の大窓ペガスス」

「夏の星座」というのは、当然夏に観望しやすい星座のことをいいます。日没後 90 分後ぐらいから、午後 10 時ぐらいまでが、普通の人が見上げる時間帯でしょう。実際に「○(季節)の星座」というのは、その時間帯に子午線付近(南中)または天頂付近に位置する星座をさしています。

しかし、恒星は地球の自転に従って日周運動(見かけの動き)をしています。午前 0 時を過ぎると、「次の季節の星座」が見えてきます。更に午前 3 時を過ぎると「次の次の季節の星座」が東の空に姿を現します。夏は日の出が早いので、さすがにここまでです。しかし冬は夜が長いので、夏の星座をまともに見られることがあります。実際に私は真冬の雲取山(!)で、明け方にさそり座を見たことがあります。



「次の季節の星座」 この写真は 12 月の明け方に撮影しました。写っているのは全部「春の星座」です。時間帯によってはちがう季節の星座も見えるのです。コップ座は暗く目立たない星座ですが、大きさはオリオン座と同じぐらいあります。(北軽井沢で撮影)

今日の未明(午前 3 時ごろ)ちょっと早く目が覚めたので、外に出るとすばらしい星空でした。秋の星座が満天を飾っています。「秋の星空は淋しい」とよく言われます。「夏の大三角」や「冬のダイヤモンド」のような、明るい星が少ないからです。秋の星座で一番目立つのは「ペガスス座」です。(ペガサスともいいますが、ペガススのほうが正しい発音です。)ペガススは「天の白馬」ですが、星座は非常に美しい長方形をしています。一等星はありませんが、長方形の中に明るい星がないので「天の大窓」とも呼ばれます。



「天の大窓ペガスス」 写真では少し台形に見えますが、これは超広角レンズの影響です。実際にはもっときれいな長方形に見えます。大窓の中に明るい星はありません。



「解説図」 長方形の左上の星は、実はアンドロメダ座の星からの「借り物」です。実は樹木の影のところに、「アンドロメダ銀河」も写っているのですが、フレーミングが悪かったです。

(北軽井沢 2014, -7, 30 未明)

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)